# 平成30年度法人本部事業計画

#### 定款に定める当法人の目的

この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を 尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持 しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地 域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行 う。

#### 法人の理念 清水あすなろ福祉会のめざすもの

- 一、すべての子ども、障害のある人、高齢者が健康で文化的な生活がおくれるよう、地域 の人々と力を合わせて、地域福祉の充実と向上に努め、施設として可能な限り必要な 支援を行います。
- 二、子供たちが集団の中で、一人ひとりが大切にされ、高齢者や障害のある人も一人の人格として尊重される施設運営を目指し、常に努力します。
- 三、利用者・職員・地域住民・関係者の協力を基礎に健全な財政の確立に努め、一人ひと りの意見を大切にする民主的な運営・経営を行います。
- 四、公的な責任と共同の力で、だれもが、必要なときにいつでも利用できる福祉施設の実 現を目指し、広範な人々と協力します。

#### 理事活動について

1 2025年に団塊の世代がすべて75歳を迎え、超高齢化社会へと突き進む中、社会福祉事業もさまざまな影響を受けるであろうことが予想されます。

増大する社会福祉関連予算をいかに圧縮するかが政府の予算編成の大きなポイントとなり同時にそのことによる影響について社会福祉事業に係るものとして理解を深める必要があります。

それは施設運営への影響と利用者への影響の両面にわたり理解する必要があります。 そのために個々の理事の努力をお願いすると同時に理事会としても何らかの措置を講じる必要がある。

#### 具体的には

- 関係部局の通達等を入手・整理し理事に配布 インターネットの活用と各施設への通知内容の周知など
- 各種講演会などへの理事の派遣・出席要請
- 理事会としての勉強会開催

などが考えられますが詳細については事務局で検討し都度理事会に提案してゆく。

#### 2 施設の運営状況について具体的状況の理解を深めることに努める

これまでも施設行事への参加などを通じて具体的な施設の運営や利用者の状況などへの 理解を深めるよう理事会でお願いはしてきていますがかならずしもそのようにはなってい ません。日常の施設運営の状況を理事がもっと気軽に見聞きすることのできる状況を作り 出すことが望ましいのですが、実際にはそう簡単ではありません。

理事と職員が顔なじみになる状況を作り出すことが一番ではあるがそれには理事が一歩を 踏み出さなければならない。

一つの機会としてしばらく開催してこなかった理事による施設見学会を開催します。

評議員は任意とし、理事は必須とします。評議員も含めると一回では人数が多すぎますの で二回に分けて行います。施設長理事は他施設の見学を義務付けます。

日程については事務局で検討し決定します。

#### 理事会運営について

理事会は年間計画に基づいてこれまでと同じ時間帯で開催します。

後述する地域懇談会との関係で11月開催を中止します。そのほかは29年度と同様に扱います。ただし、事前に開催日について重大な問題が発生した場合は日時の変更もあり得ます。

## 地域懇談会について

29年度に初めての試みとして開催し、それなりに意見交換が行われた。

物足りなさも残ったが事前準備と運営方法の改善により内容はもう少し充実できると感じる。今後継続的なものにするかどうかはこれからの検討によるが今年度は引き続き 29 年度と同様の形式で開催する。時期といては11月が適当と考える。

### 職員研修について

新入職員研修は引き続き行う。内容について再検討するとしたまま具体的な検討が行われていないので30年度は第一回の研修前に必ず検討会を開き、内容について検討を加える。必ずしも全面的な内容の変更を意味するものではないが理事会として新入職員研修に期待するものと施設側からの意見要望も出していただきながらより良い内容を目指す。

中堅職員研修は長いこと開催されていないが、30年度もしくは31年度での開催を検討したい。

### 情報発信について

ホームページの改善と法人だよりの二つが情報発信で大きな役割を果たす。

ホームページについていえば外部の人が検索してあすなろのホームページを閲覧する場合

に何を求めて閲覧に来ているかという視点でみると依然として不十分である。

施設側が発信したいことと閲覧者が知りたいことのギャップを感じる。具体的な改善策を どう講じるか?

法人だよりは発行して3年が経過し、一定の評価を得ていると感じている。

30年度も引き続きこれまでの路線で読みやす紙面づくりと内容の充実という難しい課題ではあるが努力を継続する。